

**令和7年度 第2回生野区区政会議
こどもの未来部会**

- 1 開催日時
令和7年12月16日（火） 19時00分～
- 2 開催場所
生野区役所 5階 502・503 会議室
- 3 出席者
(区政会議委員) 8名
西村委員、浮田委員、北山委員、井筒委員、足立委員、安委員、マヤ委員、今井委員
(その他関係者) 2名
上田生野区PTA協議会会長
安藤委員
(生野区役所) 11名
筋原生野区長、大川副区長、宮城企画総務課長、竹中まちづくり推進担当課長、中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山東教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、嶋田教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、森岡保健福祉課長、藤原子育て・地域福祉担当課長、森区政推進担当課長、金田企画総務課長代理
- 4 委員に意見を求めた事項
 - (1) 部会長・副部会長の選出について
 - (2) 令和8年度生野区の実行計画（案）について
 - (3) その他
 - ・会議資料 令和8年度生野区の実行計画（案）について
【別紙】生野区グローバルタウンプロジェクト資料
 - ・会議資料 本日の意見交換の主なテーマ
 - ・【参考資料1】国家戦略特区（スーパーシティ）資料
 - ・【参考資料2】事前にいただいたご質問等と区の方針、対応
 - ・【参考資料3】主なご意見等と区の方針、対応
(令和7年度 第1回生野区区政会議 全体会)

5 会議内容

○森区政推進担当課長

それでは皆さまお待たせいたしました。お時間になりましたので、令和7年度第2回生野区区政会議こどもの未来部会を開催します。本日はお忙しいところご出席いただき、ありがとうございます。私は、事務局の生野区役所企画総務課の森と申します。どうぞよろしく申し上げます。失礼ですが座って進めさせていただきます。

それでは、本日は委員改選により新しいメンバーとなっておりますので、名簿の順にご紹介させていただきます。お名前をお呼びした際には、ご起立いただきますようお願いいたします。

西村委員でございます。

○西村委員

舍利寺の西村です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

浮田委員でございます。

○浮田委員

生野連合の浮田です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

北山委員でございます。

○北山委員

生野南の北山です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

井筒委員でございます。

○井筒委員

東小路の井筒です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

足立委員でございます。

○足立委員

公募委員ですが、地域は御幸森です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

安委員でございます。

○安委員

公募委員ですが、地元はここ東桃谷の勝山中学校のPTAの会長もさせていただいておりました。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

マヤ委員でございます。

○マヤ委員

皆さん、こんばんは。桃谷に住んでいるカトリ マヤです。よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

今井委員でございます。

○今井委員

大阪大学の今井と申します。生野区の NPO で子どもの学習支援や大阪わかば高校など、いろいろなところに関わっております。どうぞよろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

なお、村岡委員は本日所用によりご欠席です。また当部会は分権型の教育行政を担う区役所が、保護者、区民の多様な意見、ニーズをお聞きするための会議としての役割も担っておりますので、関係者として区 PTA 協議会から上田会長にご出席いただいております。

○上田生野区 PTA 協議会会長

PTA 会長をさせていただいております上田と申します。どうぞよろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

本日の会議は、委員定数 9 名に対し 8 名のご出席があり、定数の 2 分の 1 以上の出席で有効に成立していることをご報告します。そして本日の傍聴者は 0 人となっております。また本日、他の部会からオブザーバーとしてご出席されている委員の方をご紹介します。くらしの安全・安心部会の安藤委員でございます。

○安藤委員

東中川の安藤です。よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

オブザーバーの方につきましては、部会長から求めがありました場合に、ご発言いただけることになっておりますのでよろしくお願ひします。なお区政会議に関します本市の規則により、本日出席された委員の方のお名前、発言内容等は公開されます。事務局で会議録を作成し、後日、区のホームページで公開させていただくほか、会議の様子を収録し、後日 YouTube で配信し、どなたでも閲覧できるようにしますので、録音や撮影についてご了承ください。つきましては、会議録を作成する都合上、ご発言の際は、マイクをお使いいただき、口元で大きめの声でお話しいただきますよう、ご協力をお願ひします。

さて、こどもの未来部会では、主に子育て・教育の分野について令和 7 年度の生野区の取組を振り返り、次の年度の取組に繋げていくため、委員の皆さまにご意見やご議論をいただきたいと考えています。本日の会議でいただいたご意見

などは後日開催する全体会で報告し、全ての委員の皆さまに共有していただきます。

続きまして本日の資料について説明します。「令和7年度第2回生野区区政会議こどもの未来部会次第」をご覧ください。そちらに本日の会議資料を記載しております。

まず、会議資料としまして、事前にお送りしています「令和8年度生野区の取組(案)について」という資料です。次に、会議資料としまして、のちにスクリーンに投影しますスライドを印刷した「本日の意見交換の主なテーマ」という資料です。次に、参考資料1としまして、「国家戦略特区(スーパーシティ)」という資料です。次に、参考資料2としまして、「事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応」という資料です。最後に、参考資料3としまして、前回6月に開催した全体会でいただきました「主なご意見等と区の考え方、対応」という資料です。資料がお揃いでない場合は事務局からお持ちいたします。

それでは会議の開催にあたりまして、区長の筋原からご挨拶申し上げます。

○筋原生野区長

皆さんこんばんは、生野区長の筋原です。本日はお仕事やご家庭のご用事で忙しい中、生野区区政会議こどもの未来部会にご出席いただき誠にありがとうございます。今回より新しくなられた委員の皆さま、どうぞよろしくお願ひします。区政会議とは、条例に基づいて開催するもので区における施策・事業について、区民の皆さまから意見・評価をいただきまして、立案段階から意見を把握し、適宜反映するとともに、その実績と成果の評価に係るご意見を聞くことを目的としております。

中でもこどもの未来部会のテーマは子育て・教育がテーマでして次世代を担う子どもたちが、この生野区で健やかに育つための環境作り、あるいは相談支援体制等の整備などの分野になっております。

本日令和7年度の取組を踏まえまして次年度8年度の生野区の取組についてご説明をさせていただきます。この取組は私自身も思いを込めました将来ビジョンを来年度の最終年度までしっかりとやり遂げるためのものでもありまして、確実に進めていきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただき、より良い区政に繋げていきたいと思っております。本日もよろしくお願い申し上げます。

○森区政推進担当課長

ありがとうございました。

それでは本日の会議の流れを説明します。まず、改選後の新体制となりますので、議事1で、部会長・副部会長の選出をいただき、議事2 令和8年度生野区取組(案)と事前にいただいたご質問と、区の考え方及び本日のテーマによる意

見交換を行っていただきます。本日も様々なご意見をお願いいたします。

議事に入るにあたり、後ほど委員の皆さまに部会長と副部会長を選任していただきますが、それまでの間、事務局の方で進めさせていただきます。

それでは議事に入ります。お手元の次第の議事1の部会長・副部会長の選出についてです。生野区区政会議運営要綱の第7条第3項の規定に基づきまして、委員の皆さまの互選により部会長及び副部会長選出いただきます。まず、どなたに部会長をお願いするかご推薦などはございませんでしょうか。

○今井委員

よろしいでしょうか。私は前回もこどもの未来部会に所属しており、これまでの参加状況などを総合的に見て、ご経験のある西村委員を部会長に推薦したいと思います。いかがでしょうか。

○森区政推進担当課長

ありがとうございます。西村委員とのお声がございましたが、ご異議はございませんでしょうか。

ありがとうございます。それでは西村委員が部会長に選任されましたので、西村委員は部会長席にお移り願います。それでは、これからの議事進行につきましては、西村部会長をお願いしたいと思います。西村部会長、よろしく願います。

○西村委員

僭越ですが、推薦いただきましたので部会長を務めさせていただきたいと思っております。皆さまと一緒にいろいろなこの生野区の資産を子どもたちのためにどう使うか考えていかせていただければなと思っております。不慣れなところもありますが、どうぞよろしくお願いします。

それでは続きまして副部会長の選任を行ってまいります。ひとまず私の方から候補をご指名させていただきたいと思っております。新しい委員ではございますが、地域で通訳や日本語指導のボランティア活動など積極的に取り組んでおられるマヤ委員をお願いしたいと思います。皆さまご異議はございませんでしょうか。

ありがとうございます。それでは副部会長はマヤ委員に決まりましたので、マヤ委員は副部会長席へお願いいたします。それでは副部会長のマヤ委員から一言お願いします。

○マヤ委員

こどもの未来部会の副部会長に選んでくださり本当にありがとうございます。これから皆さんよろしくお願いします。

○西村委員

よろしくお願いします。それでは早速ですが会議の次第に沿いまして次

の議事に入ります。

区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、行政とともに、生野区の課題解決のため、どう取り組むべきかを建設的に考える。そういう趣旨の会議となります。よって委員皆さまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って、積極的なご発言をお願いできればと思います。なお、意見交換に際して、限られた時間でより円滑に進めていただけるよう、ここからは学識委員の今井委員にファシリテーターをお願いしたいと思います。それでは、今井委員よろしく申し上げます。

○今井委員

部長からご指名いただきました今井と申します。昨年度も2年間お世話になりました。今年もどうぞよろしく申し上げます。では皆さまの意見交換のお手伝いをさせていただきます。それではまず会議の次第に沿いまして議事2 令和8年度生野区取組(案)について区役所から説明をお願いします。

○金田企画総務課長代理

企画総務課の金田と申します。令和8年度生野区取組(案)について、ご説明させていただきます。着座にて失礼します。

まず、生野区運営方針とは何かということについて、簡単にご説明いたしますので、前方のスクリーンをご覧ください。生野区運営方針とは、区における「施策の選択と集中」の全体像を示す方針として毎年度策定するものであり、生野区将来ビジョンに向けた毎年度のアクションプラン(毎年度の施策・事業の取組を明らかにするもの)となります。下の図をご覧くださいとイメージがしやすいかと思います。生野区のめざす将来像や施策展開の方向性などを示したものが生野区将来ビジョンであり、それに向け毎年度のアクションプランとして策定するのが生野区運営方針となります。

それでは、「令和8年度生野区取組(案)について」ご説明します。事前に送付した「令和7年度第2回生野区区政会議資料 令和8年度生野区取組(案)について」をご覧ください。表紙をめくって1ページ目には、生野区のめざす目標と使命、そして生野区の運営の基本的な考え方として、生野区政3本柱を記載しております。この3本柱ですが、こちらの資料の最終ページをご覧ください。

「生野区グローバルタウンプロジェクト」として詳細を記載しておりますので、少し説明させていただきます。まず、「教育・地域福祉」として外国籍の方が安心して暮らせるまちづくりをめざし、公民連携により支援機関等の活動をサポートする環境をつくりあげることをめざします。次の「地域経済活性化」として、技術力の高い製造業はあるが減少の一途をたどっているため、製造業とデザイナーをマッチングすることにより新商品の開発や新たな雇用の創出、また外国ルーツの人を対象にしたセミナーを行い起業機会を提供します。そして「観光集

客」として、年間 200 万人が訪れる大阪コリアタウンという観光地ですが、夕方 5 時には閉店するため、インバウンド客が夜も楽しめるまちとして台湾の夜市のような賑わい拠点の創設をめざすこととしております。これらの 3 つの柱の取組を進めているところです。資料の 2 ページに戻ってください。こちらの資料の見方としまして、各経営課題、戦略ごとに、めざす状態、課題認識、主な戦略、評価指標、令和 7 年度の取組実績、令和 8 年度の主な取組・予算要求額として、見開き 2 ページにまとめています。基本的には令和 7 年度に引き続き、各種取組を行ってまいります。

それでは、こどもの未来部会の取組の部分についてご説明いたします。資料の 16 ページをご覧ください。経営課題 3 「子育てにやさしく教育につよいまち」戦略 3-1 「安心して子どもを産み育てることができる環境づくり」について説明します。2 の課題認識ですが、子育て情報が容易に収集できる環境の整備とともに、孤立化しがちな子育て世帯などが気軽に相談や交流できる機会を提供するなど、安心して子育てのできる環境を整える必要があります。そして、昨年までは戦略 1-4 「ひとりも取りこぼさない支援を」に入れていた項目ですが、真に必要な方だけではなく、様々な方へ対象を広げるため、妊産婦伴走型相談支援の推進をこちらの戦略 3-1 に変更しています。また、次世代を担う若い世代を呼び込むため、区民だけでなく区外の方々にも安心して子育てのできる環境をアピールする必要があります。3 の主な戦略として、「ライフステージに応じた子育て支援の充実」「安心して楽しく子育てできる環境づくり」を進めていきます。4 の評価指標ですが、助産師相談件数 120 件以上、また子育てに関するイベント等でのアンケートで「イベントが子育てしやすいまちづくりに役立っていると感じる」と回答した割合を令和 8 年度末までに 80%以上と設定しています。17 ページをご覧ください。5 の令和 7 年度 10 月末時点での取組実績ですが、それぞれの取組については、妊娠・出産・子育て時期における保健師のサポート内容について広報紙に掲載するなどして支援の充実を図るとともに、「いろんなことば&いろんなあそび de いくのっこパーク」などを開催し、子育てできる環境づくりの取組などを行っています。6 の令和 8 年度の主な取組・予算要求額については、妊産婦母子育児支援事業として先ほど申し上げたとおり戦略の見直しを行ったため、約 500 万円増額となっています。事業の内容については事前質問を受けていますので、こちらのほうは、後ほど説明させていただきます。

18 ページをご覧ください。戦略 3-2 「未来を生き抜く力の育成」について説明します。2 の課題認識ですが、学校外での学習状況や将来への希望、困難に立ち向かう児童生徒の割合が全国平均と比べ低いため、未来を生き抜く力を育成するためには、学校を通じた多様な学びの機会の充実を図り、特色ある学校の取組への支援が必要です。そして、近年は、外国につながる児童生徒の増加や多国籍

化が進んでいるため、日本語指導などにおける学校への取組支援が必要です。また、全ての人がどのライフステージでも主体的に学び、心豊かな人生を送ることができるような社会的な環境の熟成などが必要です。そして3の主な戦略として、【次世代の学校づくり】【まちの教育力を上げる】ことをめざします。4の評価指標について、指標としては、2項目ともにアンケート結果の割合で令和8年度末までの達成をめざします。19ページをご覧ください。5の令和7年度10月末時点での取組実績について、【次世代の学校づくり】の②民間事業者等を活用した課外事業「いくの塾」では、対象が中学生・義務教育学校の7年生から9年生のものは7教室113名、対象が小学校及び義務教育学校の5・6年生のものは7教室37名の方が受講しています。【まちの教育力を上げる】では、生涯学習ルームフェスティバルを来年3月に実施予定となっています。6の令和7年度の主な取組・予算要求額について、次世代の学校づくりですが、学校配置の適正化として計画する学校再編が終了するため予算が減額となっています。

令和7年度生野区の取組についての説明は以上となりますが、ここで、参考資料1「国家戦略特区（スーパーシティ型）」の資料をご覧ください。生野区独自の取組ではありませんが、先ほどの課題認識でもありましたが、急増する外国につながる児童生徒につきまして、国家戦略特区を活用し、外国ルーツの住民と地域住民が共生できる社会の実現に向け、学校外での日本語教育の提供と高セキュリティな管理下で学習状況データの指導者間共有の実現により、学校を中心とした地域体制強化として民間事業者が主体となった規制改革を生野区内の小中学校で取り組んでいます。国への規制改革提案の内容としては、学校以外の運営主体・場所で、教員免許を有しない者であっても特別の教育課程による日本語指導の実施を可能とするものです。これにより学校・教員の負担軽減及び学校を中心とした地域における教育体制の強化を図ることとしています。スケジュールをご覧いただき、今まさに生野区内の小中学校で実証事業を実施しており、次年度、国より規制改革の判断が出される予定となっています。ご参考までにご報告させていただきました。

次に参考資料2の「事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応」をご覧ください。こどもの未来部会に関する質問のみ説明させていただきます。2ページ目の下、今井委員より「助産師による妊産婦母子育成支援事業」について、新年度になっての事業の詳細や状況について教えてくださいとのご質問ですが、児童虐待ハイリスク妊婦や養育困難な家庭のみを対象に、助産師による個別訪問支援の1歳までの延長を実施し、今年度からは、区役所において助産師による個別相談や専門性を活かした講座等を毎月開催するなど事業を拡充させています。また令和8年度、こども家庭庁においても「妊産婦包括相談支援事業型」を新設し、専門職雇用経費を補助対象に拡充するなどの取組を進めています。当区にお

いても、専門的にトータルケアができる助産師による支援について、対象を「ハイリスク妊産婦及び乳児」から「すべての妊産婦及び乳児等」に広げ、ハイリスク妊産婦のみならず全ての妊産婦等が安心して子育てできるよう、適宜、相談・支援ができる体制を整備し、伴走型相談支援を推進します。

次に3ページに移り、同じく今井委員より、外国につながる児童生徒の増加や多国籍化について、日本語指導や多文化共生教育への学校支援を行うとのことですが、外国籍住民や外国につながる住民、保護者などが学校に行き、多文化共生教育の支援をするなどの事例はありますが、こうしたことはされているかとの質問ですが、それに対する区の考え方、対応は、基本的には大阪市教育委員会事務局において日本語指導の拠点整備や人員派遣などの体制構築等を実施していますが、生野区では各学校に対し、日本語指導が必要な児童生徒の状況を踏まえて翻訳機の貸与を行っているほか、NPO法人など民間団体の協力のもと、各学校からの依頼に応じて教職員や児童生徒向けの出前授業等の支援を行っています。

次に、足立委員より「生涯学習」についてご質問をいただいています。1つ目は、学校統合になった場合の生涯学習ルームは1つの小学校に1つの設置となるが、現在はどうか。2つ目は新しく生涯学習ルームで講座を設置したいと希望しても、学校跡地施設では設置できないと聞いた。統合された学校では、高齢者が通うのは遠く、また、児童生徒の人数が増えるので新しく開設するのが難しいのではないかと。生涯学習ルーム開設について、区内の実情に合わせた規制緩和をするべきではないかとの内容です。質問に対しまして、区の考え方、対応ですが、生涯学習ルームは、現在区内小学校・義務教育学校の各校区に合計14の運営委員会を設置しています。活動場所については、学校施設を活用することを基本としていますが、学校再編を経た小学校区については、従前の活動経過も踏まえ、再編後の学校跡地についても民間による活用との調整を図った上で可能な範囲で活動場所として活用しています。生涯学習ルームの新しい講座の開設にあたっては施設の本来の使用者との協議・調整を行う必要があり、今後も関係者の意見を踏まえながらできる限り調整を行っていきたいと考えています。

4ページ目の下段に移りまして、足立委員より学校再編の結果についてのアンケートについて、前回のこどもの未来部会で要望があった「学校再編の結果についてのアンケート」の件について、進捗状況はどうなっているかとの質問がありました。これに対して、区の考え方、対応につきましては、学校再編の検証については、現在も教育委員会事務局において大阪市学校適正配置審議会の意見を受けて検証作業が進められています。区役所としては、引き続き教育委員会事務局と連携し、検証結果も踏まえて、学校の適正配置や学校支援に取り組んでまいります。

こどもの未来部会にいただいた事前質問に対する回答は以上となります。その他の質問及び回答につきましては、お時間があるときにご覧ください。また、参考資料3としまして、前回の区政会議全体会の主なご意見と対応につきましても、お時間があるときにご覧ください。

最後に、本日は資料を配付していますが、令和6年度より継続して実施させていただいている意見交換の主なテーマを設定させていただいております。生野区では様々な子育て支援事業に取り組んでいるが、各地域において、子育て中の方や、子ども達が集まり、地域と繋がるには、どのような工夫が必要か。成功事例の共有として、特にご意見やアイデアをいただきたいので、どうぞよろしくお願ひします。事務局からの説明は以上となります。よろしくお願ひします。

○今井委員

ありがとうございます。では区役所からの説明についてのご意見・ご質問等と、テーマに基づいた意見交換の二つをこれからやっていきたいと思ひます。新しいメンバーの方もたくさんいらっしゃるのて1人一言、1回以上、皆さんにちゃんと時間が回るように私もファシリテートしたいと思ひますし、発言はゆっくりでわかりやすい言葉で発することを皆さんぜひ協力していただけたらと思ひます。

では区役所からの説明について何かご意見・ご質問などはありませんでしょうか。発言の際は手を挙げてお名前をお願ひいたします。

足立委員お願ひいたします。

○足立委員

確認です。今日の意見交換の主なテーマとも関わると思ひますが、私が質問させてもらった生涯学習ルームのところですが、区の対応が柔軟になったという認識でよろしいのでしょうか。つまり、前までは新しく生涯学習ルームの講座を設置する場合は、統合した学校でしか設置できないというようにお返事をもたらしているのですが、この「区の考え方、対応」だと、学校もしくは再編されて統合されたところ、例えばインターナショナルスクールさんとか、それぞれの事業者と折り合いがつけば、新しい講座の開設も可能であると取らせてもらっているのかなと思ひました。私としてはとてもありがたいというか、まさに今日の意見交換テーマでもある、「地域と繋がるにはどのような工夫が必要か」の一丁目一番地だと思ひています。そこにも書きましたが、学校が統合されて近くに学校がなくなると、やっぱり子どもたちも高齢者も生涯学習ルームに通うということがなかなか難しくなります。なので、跡地に入っている事業者にも柔軟に対応してもらいたいです。もう一点、各地域にある会館の使用も含めて、広い意味での生涯学習の場というものを認めてもらうことで、地域と繋がる工夫の「場の確保」というところに広がるのではないかなと思ひています。確認でもありますが、

お尋ねしたいところです。

○今井委員

ありがとうございました。生涯学習ルームの設置が柔軟になったと考えていいのかという点は、後で区役所の方から回答いただけたらと思います。他にいかがでしょうか。安委員お願いします。

○安委員

2点あります。1点目は、質問の中にも出ていますが、以前のこの部会でも話題として出ている、西部地域の学校再編でのいわゆるヒアリング調査についてです。この質問に対する地域まちづくり課の回答の中には、「教育委員会と連携しながら」となっていますが、御幸森小学校の跡地委員会に参加した1人として言わせてもらおうと、当初からこの西部地域の学校再編については行政、生野区役所が主導でやってきたので、成功裏に終わるように最後までコミットメントすべきです。にも関わらず、「教育委員会と連携して」、「教育委員会と連携して」という説明がずっと続くのですが、決してそうではないのではないかなと思います。問題はいくつかあって、地域と学校と保護者が三位一体となることが西部地域の学校再編での学校のあり方であって、私が聞いている範囲では、例えば生野未来学園では、小・中9年間の義務教育学校というのが初めてできて、そこでの様々な課題があると聞いてます。勝山中学校の前の原口校長がおっしゃっていたのが、地域が鶴橋地域と勝山、東桃谷地域が合併したときの配慮がものすごく必要だったとのことです。私がPTAの会長のときも、勝山中学校の場合は勝山小学校と東桃谷小学校が合わさった校区なので、常に地域と連携することを意識していました。例えば、PTAの会長を選ぶときも、東桃谷出身の方の次は勝山出身の方というように、地域が連携できるような形を取っていました。聞いたところによると、地域と学校と保護者の三位一体であるべきにも関わらず、また、生野区こども地域包括ケアシステムの中でも、民生児童委員と学校側が連携しないといけないことになっていますが、学校側と民生児童委員との定例会が今はなくなっているという問題があるとのことです。また、学校がそれだけ対象の地域が増えると地域との兼ね合いがすごく難しくなっているのと、PTAも9年間だし、会長もそれぞれの地域の思いがやっぱり自然と入ってくるわけですね。そのケアがとても必要で、不登校も増えつつあるようなことを聞いていますし、やはり地域連携と、小中一貫校の難しさというのをいろいろなところでお聞きしてるので、そこには行政が当然積極的に関わって調査をすべきだと思います。前回の部会でも話が出ているので、丁寧にやっていただきたいです。

2点目は、予算を見ると妊産婦ケアに関して500万円ぐらいアップしています。これは、私が部会でずっと言い続けてきたことです。この500万円の中身について具体的に聞きたいと思います。というのは、住吉区役所では週4回、9時

から 11 時で助産師が常駐しているという話を、私は以前もお話ししていますので、生野区では具体的にどういった形でケアをするのか、つまり人数的な補完をどのようにされるのか、助産師会とどのように連携しているのか具体的にお聞かせいただきたいです。

○今井委員

西部地域の学校再編に関して、アンケートや調査を区主導で何か考えているのかということと、妊産婦ケアの具体的な取組について聞きたいとのことでした。区役所の方には最後に回答いただけたらと思います。他にいかがでしょうか。

井筒委員お願いいたします。

○井筒委員

東小路の井筒です。

私は福祉コーディネーターもさせていただいて、地域で子育てに関するサロンが東小路は全くなくなってしまっていたので 2 年前に立ち上げたのですが、保健師さんの担当が変わるごとに動きが全然違います。それぞれ個別訪問をされたときに、「こんなことを会館でやってるよ」とか言ってくださる方はいいのですが、そういった周知も全然しないし、子育てサロンにも来ないという方もいました。今の担当の保健師さんはいい方で、お知らせしていたら異の方からでもわざわざ来てくださったりします。子育てに関する相談が保健師さんにもできるし、お母さん方の間でもできるという体制が、できてはきているのですが、保健師さんの力ってすごく大きいので、どこまでどのように保健師さんが関わって、どういう力を持っているのか、どういう動きをされているのかが私たちにはなかなか見えないので、ちょっと教えていただきたいと思います。

それと、私は「いきいき活動」でも仕事をしているのですが、外国籍の子どもが増えてはきていますが、コミュニケーションに関しては日本人の子どもの方がちゃんと伝えられないということもあります。タブレットは使えるけれども、言葉では伝えられないという状況になっていますので、少しずつれるかもしれませんが、教育に関して言うと、外国籍の子ども含めてですが、全ての子どもに対して、昔ながらの会話力とかをつけることに、もうちょっと力を入れていただきたいです。外国籍の子どもには個別にちゃんと教える機会がありますが、日本人の子どもには、そういった機会が全然なくて、「話せて当たり前」「言えて当たり前」となっているのです。

あと、「はぐくみ」という活動があって、今も一応あるけど活動できていないような状態のところはほとんどだと思います。この「はぐくみ」は民生委員なども全部含めて地域の方が全員で話し合える場所だったはずなので、それをもう一度きちんと作って、地域のおじいちゃん・おばあちゃんも子どもに関われるような形を再編できたらという希望を持っています。

○今井委員

井筒委員ありがとうございました。最初の保健師さんの関わり方については区役所から回答をいただいた方がいいですね。その後の外国の方だけではなく全ての人のコミュニケーション力をつけていきたいと思いますというのは、意見交換のテーマにも重なるなと思いました。

他に質問とかありますか、よろしいですか。では、区役所から回答できますか。

○中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

まず、生涯学習の取扱いについては、参考資料2の「区の考え方、対応」にも書かせていただきましたが、生涯学習の場は基本的には小学校区ごとに運営委員会を作らせていただいております。再編後の学校跡地については、活用いただく事業者への条件との関係もありますので、無制限に使えるということにはなりません。再編前まで活動いただいていた既存の講座を前提として民間活用と調整を図っていくというのが基本となっております。その上で、実際に事業者が決まってからは、地域からのご意見・ご要望を踏まえて事業者と調整させていただき、使っても構わないという話になれば、そのように対応していくというような形でさせていただいているというのが基本となっております。跡地活用は地域ごとで状況が異なりますので、それぞれの校区の状況に応じて調整してきているところです。なお、会館の使用については現時点では生野区ではそこまで拡大していませんが、そのようなご意見があることも認識し、今後も考えてまいりたいと思います。

また、学校再編に関するアンケートの状況については、教育委員会とも協議している中では、学校再編の検証ということと各学校の運営がうまくいっているかどうかということとは関係性が非常に難しいところもあり、学校適正配置の検証としては、学校の運営やこどもの教育環境として、学校再編前の課題との関係でどうかという観点で捉えていまして、現在その検証作業を教育委員会の方で行っています。一方、再編後の各学校の運営については、生野区役所も当然、再編後の各学校がより良い形で運営され、こどもの教育環境が充実したものとなるよう、引き続き支援してまいりたいと考えております。これまでも各学校ともご相談させていただき、教育委員会とも連携しながら取り組んできているところですが、今後も、検証も踏まえながら、引き続き取り組んでいく考えでございます。

また、外国人の子どもたちへの支援などに関して、外国から来られて日本語が全くわからない方への日本語指導の支援について、教育委員会と区を取組を記載させていただいておりますが、日本人の子どもの国語力・コミュニケーション力についても重要で、併せてやっていく必要があると思っております。各学校では、多文化共生の教育ということで、日本人の子どもたちの日本語理解や外国

や日本の文化に対する理解なども並行して行っているところですが、本日いただいた意見もふまえて、また教育委員会と共有して対応してまいりたいと考えております。

○森岡保健福祉課長

先ほど安委員からご質問いただきました、令和8年度の予算額が500万円プラスで計上されているという点についてお答えします。事前質問に対する「区の考え方、対応」の中でも書かせていただいておりますように、これまでの区政会議の議論の中でもありましたが、本年3月の市会で助産師の常時配置という点について要請がありました。また一方で、国のこども家庭庁で「妊婦等包括相談支援事業」というものが新設され、令和8年度から予算措置が可能になりました。国が予算の2分の1を負担して、大阪府が4分の1、大阪市が4分の1を負担するという枠組みになりますが、新たな予算が創設されたということなので、議論経過等を踏まえて、会計年度任用職員になるかと思いますが、通年雇用で助産師さんを1名採用できるように、令和8年度から予算計上をさせていただいているところです。この予算が国の方で創設をされたということで、24区中、11区がこれを活用して事業展開していくというような話も聞いています。なにぶん予算ということで、予算市会の成立を待つということになりますが、生野区については、先ほど申し上げたように助産師さんを通年雇用するというので予算を計上させていただいているところでございます。500万円程度の予算増加はその部分になるということでご理解いただければと思っております。

あと井筒委員からご意見をいただきました、保健師の地域における活動に関することですが、現在生野区では、おおむね1人の保健師が2地域を受け持って、各地域の担当として地域と共に活動をしていくという体制になっております。ご意見をいただきましたように、もちろん前回の担当者と今回の担当者で対応が違うといったことがないように、行政としては常に同じスタンスで臨めるようにしていきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

○今井委員

ご説明ありがとうございました。今の内容については引き続き触れていただいても結構ですので、意見交換を進めてまいりたいと思います。区役所からテーマが示されていますのが、生野区の各地域において子育て中の方や子どもたちが集まり、地域と繋がるにはどのような工夫が必要か、あるいは課題があるかといった内容かと思っております。テーマ以外のことでも結構ですので、ぜひ活発な議論、ご意見をいただけたらと思います。いかがでしょうか。

浮田委員お願いいたします。

○浮田委員

生野連合の浮田です。私は生野未来学園にはいろいろな形で携わらせていた

だいていて、先日防災訓練があったのですが、そのときに子どもたちの真摯な聞き方、行動を見て、ものすごく安心しました。不登校に関しては、在校生の分母が大きくなっているのに、分母の小さい学校と比べても、割合としては、それほど多くないのではと思いますが、本来、不登校はない方がいいので、西村委員も一緒に出ている会議があって、その会議の中でも、どのようにしていったらいいだろうかと常に考えています。先日も話し合いの中で出たのですが、今、生野未来学園の7年生から9年生までの子どもに頭髪を染めてる子は1人もいないんです。ただ、まだやっぱり小学校低学年にあたるような前期課程の子どもの中には、親の意向で頭髪を染めている子どもが若干いました。それは個性だという形で。私は学園長とも、教育委員会の方とも話して、生野未来学園での染毛の全面禁止について提案させてもらっています。生野区は学校選択制を採用しているので、他の学校に通学することも選択できますので。子どもたちが真っ当な学校生活を送れるようにするにはどうしたらいいか、いつも考えています。

それと今日一番思っているのは、学校を統廃合すると子どもたちの顔が見えなくなるということです。私は今まで生野小学校にずっと携わらせてもらってきたのですが、生野小学校のときに顔が見えていた子どもたちが、見えなくなるんです。ちょっと余談で申し訳ないんですが、地域の餅つきをこれからどうしていくのか、考えています。うちの地域では毎年100kgのお餅をついて、「子どもたちが喜ぶ顔を見るために皆で協力し合おう」とやってきてるのですが、どんどん顔が見えなくなってきました。それに対してどうしたらいいか今一生懸命考えていて、やっぱりうちの地域にはまだ子供会があるので、その子供会を何とか活性化できるようにしたいよねって話しています。行政としても、やっぱり子どもの顔が見えなくなっているんだから、今後どうしていったらいいか、真摯に取り組んでほしいです。

また、生野未来学園では今外国人がものすごく多くなっていて、学校の先生がそれに手を取られる時間が多くなっているというのも聞いています。私は防災の活動にも関わっていますが、外国人の中には住んでいる地域で町会にも入らない人たちもいて、防災の活動の中でその方たちの対応も地域でしないといけないので、大変なんです。私は地域の人たちのために一生懸命やっているので、外国人の方たちも地域に入ってきてくれるような環境づくりをすればいいのではないかということで、うちの地域では夏祭りもあるんですけども、例えば中国籍の人がいるんだったら、「水餃子ってイメージがあるかな」といった感じで、そういったものも出せるように、生野未来学園のPTA会長もうちの地域の人なので、協力し合おうよと話をしています。そういう時に、行政がバックアップして、通訳の人も一緒に入ってもらえるようなこともあれば、「あ、こんなところにこんな方が住んでいるんやね」となって、そこでまたコミュニケーションがで

きたりもします。日本語を話せる人は、ちゃんと話をすれば民生委員の人たちが行って、きちっとやってくれているんですよ。ただ、全然話せない人たちもやっぱりいるので、そういった人たちをどうやってフォローしていくのか。多文化共生ということを前の区長から大きく掲げていますが、やるなら最後まできちんとしてやってほしいです。私たち地域は受け入れている側なので、受け入れるためにいろいろな知恵を絞ってやっています。でも行政が今のままで多分何もできない。例えば災害が起きたときに、避難所などで、言葉の問題はどうするのか。うちの地域の人たちは、どんな人も平等に助けてあげようって人ばかりなので、そういった雰囲気は子どもたちにも伝わっていくだろうし、そういった意味でも、やっぱり子どもたちの顔が見えなくなるというのがものすごく不安なんです。やっていかないといけないことだろうし、そのあたりは考えてもらいたいです。

生涯学習とか、いろんな形の統廃合になった中で私もいろいろとやりました。生野小学校の跡地活用のときに全てをやってきたんですけども、やっぱりそういった意味ではそういう人たちに対して、やっぱりそれを楽しみにしてる人たちもいるので、そういったことも考えながらやっていかないといけない。今はワン・ワールド・インターナショナルスクールという学校になっているのですが、そこがちゃんと受け入れてくれています。照明代やグラウンド使用料とか一切なしで全てやってもらっていますが、地域ともいろいろとトラブルが多いんですよ。何かをやることによってトラブルが出てくるのは当然ですよ。国籍に関わらず後から引っ越してきた人に対しては、ごみの出し方が違ったりすると、不満が出たりしますよね。でも、それは、今インターナショナルスクールとうちの地域と、区役所の跡地活用の人も含めて、本当に一生懸命になって、建設的に話が進められるようにやっていっています。

生野未来学園などに関しては、そういった状況です。やっぱり大阪で初めての義務教育学校ということで、学校の先生方は本当に一生懸命頑張っているし、皆それなりの心構えをしながらやっているんで、いろいろな噂とかは出ると思いますが、そこは一つ一つ解決しようとしながら、地域も含めて皆で取り組んでいますので、私は全然心配していません。ただ一つだけ言えるのは、子どもたちの顔が見えなくなるのは間違いないです。私たちにとってみると、子どもたちの顔が見えなくなるっていうのが一番怖い。PTAとかいろいろと携わらせてもらっているので、常に子どもたちの顔を見ながら行動していたところがあるので、そのあたりは何とかこれから行政と一緒にクリアにしていけたらなと思っています。

○今井委員

浮田委員ありがとうございます。今すごく大事なことをおっしゃられたと思って。子どもたちの顔が見えなくなるのと、外国の方の顔が見えないというところで、

やはり日常的に顔が見えていないと何かのときに一緒になってできないというところがあったので、ぜひマヤ委員にも、どういった感じのことがそれぞれあるのかということを知りたいなと思いました。

そのまま順番でマイクを回してもよろしいですかね。北山委員がもしよければ一言お願いします。

○北山委員

いっぱい議題が出たので何について喋ったらいいか。今、生野未来学園の話が出たので、田島南小中一貫校になった生野南小学校の方がどうなってるかという話を少しさせていただきます。うちの方は岡崎学園という、専修学校、自動車整備専門学校、保育園などの七つの施設を日本人が経営されている学校法人に入らせていただいています。ものすごく話はしやすいし、先生方や学校も、地域や学校の行事に参加していただいて、一緒にスリーアイズをしたり、いろいろ参加していただいているんです。だから、とてもうまくいっていると思います。今は自動車整備専門学校なので外国人の方は非常に少ないのですが、この学校は新校舎建て替えの期間で生野南小学校の場所に入っていたので、完成した新校舎に移転が決まっています。次は日本語学校が入ってきます。どこの方が入ってくるのか決まっているのかわかりませんが、そのときに話が通じるかどうかというのが非常に心配になります。というのは、うちの隣にワンルームマンションがあって外国人の方がたくさん入居されています。昔は日本語と英語と韓国語ぐらいのポスターを作っておけば、ごみもちゃんと出してくれたのですが、今は中国語、ベトナム語を足してもちゃんと決まった日にごみを出してくれません。間違っておみを出している人を見かけたら、「今日は違う」というふうに身振り手振りで話したら、次からはちゃんと出してくれているので、きっとポスターを見ても何のことかわからない人なんだなということがたくさんあります。今80か国もの人が生野区にいますと言いますが、今度入ってくる日本語学校の生徒さんたちにも、どんなふうに話したらいいんだろうなというのが今から少し心配になっています。

あと、町会についてですが、町会は子供会と関係ないので話は割愛します。とりとめのない話になってしまいましたが。

○今井委員

北山委員ありがとうございます。言葉が壁になると、そこからコミュニケーションがなかなか取れないという問題のお話でした。何かそういったところで、このように壁を乗り越えているとか、いい事例がありましたらぜひ皆さまの中からお聞かせいただけたらと思います。上田会長もよろしいですか。

○上田生野区PTA協議会会長

そうですね、私は田島南小学校のPTA会長もしております、この間、学校協

議会に参加してきたときに、2学期までのアンケートということで、小学6年生と中学3年生の保護者と児童のアンケートがあって、学習面のことや今夢を持っているかとか、そのようなアンケート結果を見させていただきました。それと共通しているのかはわかりませんが、「令和8年度生野区の取組(案)について」という資料18ページの課題認識の中に、「困難に立ち向かう児童生徒の割合」に関する記載がありましたよね。ちょっと私の中で共通していると感じていることは、自己肯定感、自己肯定力が低いというのが、不登校の子どもたちに関しても言えるのかなということです。自己肯定感が低いと「夢や希望を持ってない」「現状に満足できない」というようなことに繋がっているのかなと思います。それを教育に求めても、きっと、何と言うか、自己肯定力が上がるわけではないとは思っていて、それはやはり家庭の中にあることだと思っています。だからこそPTAとしての役割があるのかなと思うのですが、思ってるだけでどこまで介入していけるか。まずはお父さん・お母さんの自己肯定感を上げていくというような取組が大事なのかなと感じています。

○今井委員

ありがとうございます。難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦したいと思うとか、そういったお話なのかなと思って聞いておりました。自己肯定感は大事なキーワードだと思います。

安委員よろしいですか。

○安委員

浮田委員から大変貴重なお話をしてもらいましたが、やはりそれぞれの立場でそれぞれの話を聞くと、「そうなのかな」というのがあるので、そういう意味で、生野区役所が学校再編を積極的に進めてきたのだから、行政として、例えば不登校は何人いるかとか、学習習熟度とか、統廃合する前と後の差異をきちんと分析して、打つべき手を打たないといけないのではないかと私は問題提起をしているわけなんです。だから、そこはやはり積極的にコミットしないと、結局。来年度も、勝山小学校が入ってきますよね。私がすごく気になるのは、やはり地域のことです。私は東桃谷なので、東桃谷がものすごく気になります。外の子どもたちと一体感を持つというのはものすごく難しいことなので、地域と学校と保護者が三位一体になっているかということも当然チェックすべきだと思っています。だから、アンケート調査は近々の課題ではないかなと考えている次第です。

もう一つ、意見交換の話をちょっとしておかないといけないので、私がいる東桃谷の勝九という地域があって、20年ぐらい前の話ですが20戸ほどの世帯の子供会の会長をしました。そのときに気になったのは、みんなが集まる場所なんですよね。学校が各地域でやったのはドッジボール大会でした。昔の話で申し訳な

いけど、各 19 町会、地区対抗でドッジボール大会をするんですよね。優勝チームには何か賞をあげるとかして、そうすると子どもたちはたくさん来るんです。教員も入ってやっていましたが、少子化しているので、そういう仕組みがものすごく難しく、勝九の子供会自身も潰れています。潰れた理由は、子どもが減ったからという話なんですけど、「そんなことないでしょ」と思います。子どもが減ったのなら二つ三つを合併してチームを組んだらいいわけで。そういう仕組み作りをもう 1 回見直して、団体行動というのはやはり子どもたちにとって切磋琢磨するためのツールになるので、ぜひとも各地域の子供会を充実させる予算的、人的なフォローを区と地域が一体となってやるべきかなと思っています。

あと最後、私は巽南の方でこども食堂とか子ども支援をやっている NPO 法人の役員もしていて、代表理事からいろいろな話は聞いているんですけど、見守り強化事業というのがあって、近々の課題になっているのは、ひとり親世帯が本当に増えているということです。その子どもたちに寄り添おうと思ったら、やはりその家庭の中に入り込んで、例えば子どもの見守り強化事業を充実させていかなければいけない。それは地域の民間法人もやりますし、行政もやるというように連携する。情報やお金などを生野区独自でも強化していくということが必要なんじゃないかなと思います。だから、地域の子どもたちが減っているんだったら、各地域の町会が一緒になってもいいから、そういう子供会を再興していくことと、また、ひとり親世帯の子どもたちがいるので、その子どもたちの家庭に直接コミットメントできるような事業を地域と連携してやっていくという、この 2 点が必要なのではないかなと個人的に思っています。

○今井委員

ありがとうございました。ではそのまま足立委員の順番でいきましょう。

○足立委員

私も統合についての課題はいろいろと聞いています。でも、統合してもしなくても、学校って課題があるものです。ただ、統合した学校が目立つから言われるだけで、そんなキラキラした学校ってないからね。御幸森も中川もあって大きな道路を越えて通学するからとか、いろいろと心配は尽きない。ただ安委員と同じで、区役所が旗を振って学校再編をやったのであれば、やはりそういった声を丁寧に聞く姿勢を見せてほしい。アンケートが無理なのであれば、個別の事案について学校で対応できない場合は、特に統合していることによる問題については、やはり行政として責任をもって対応してほしいだろうし、しかるべきところへのサポートなり、外国人の子どもについては区内にもいろいろとサポートしている NPO 法人などに声をかけて、そこから話を聞くというのをやってほしい。私のところはこども食堂もやっていますが、子育て支援室とか社協さんの方から常にいろいろとアプローチしてもらっていて、個別の事案についてはフィー

ドバックして戻すようにしていて、そちらで対応してもらってまた学校に伝えるというようにしています。やっぱり声を常に聞くというところかというと、生野区でいうと私のところでは、子育て支援室とか社協さんはよくやってくれているから、そういうのは必要だと思います。

もう一つ、私も御幸森小学校で教員をしていたのですが、そのときにピアスをしてきた子がいたんです。もう10年以上前の話ですが、それは私が赴任する前日の話で、担任する子だったのですが、禁止だと伝えるとお母さんが怒ってきて、「ピアスがダメなら学校に行かせません」となりました。お母さんから話を聞いてみると、母子家庭で子どもに十分なことを教えられないし、他の子のように習い事もさせられないという状況で、月々の小遣いやお年玉を貯めて、あこがれている自分のお姉ちゃんと同じようにピアスを開けたということで、その穴を塞げとは言えないとおっしゃったんです。それ聞いたときに、学校が「ピアスあかん」「髪の毛染めたらあかん」「へそ出すような服着たらあかん」っていうだけでは問題の解決にはならないんだと思って。「ピアスの穴を塞げるまでは学校に来なくていい」と言うことは簡単ですが、そういった保護者の子育てをサポートするのも学校の役目だなと感じました。あの頃は学校選択制もなかったのも、御幸森の子は御幸森でどの子も取りこぼさないで育てるんだという強い意識がありました。自分の将来に向けてのことにお金を貯めていくとか、もう少し違うものになるようにその子の考え方とか感性とかを豊かにするのは、やっぱり学校の責任だと思ったので、ピアスの件は、他の子どもに見えないようにして通学してもらいました。同じクラスの子どもたちも知っていたけど誰も何も言いませんでした。それは、先生がどの生徒も大切にすることを、何とかしたいという思いが伝わったのではないかと思います。そのうちに御幸森小学校がユネスコスクールにも認定され、どの子も大切にすることを続け、最終的にはピアスする子や髪の毛染める子はいなくなりました。「髪の毛染めたらあかん」とただ言うのではなく、「若いときから髪を染めていたら、大人になったらはげるで」などというように、染毛やピアスはリスクも含めて保護者にも資料などを配布して伝えていました。ただ民族的には、子どもの頃からピアスを開ける文化のところもあつたりするので、そういったものは国際理解教育の範囲でやったらいいと思います。

私はいつも思うんですが、「過去と他人は変えられないけども、未来と私は変えられる」となれば、変わらないと思っていたものを変えるならば、さっきの話じゃないですけど、紙で書いてだめなら、丁寧に声をかけるというように、まず自分から一歩進んでいくことがすごく大事だなと思っています。また、自分の常識、例えば「外国人」という言い方も非常に危険をはらんでいるなと思っています。この会議にも2人の外国人の方がいらっしゃいますが、浮田委員がおっしゃった外国人の中にはこの2人はイメージとして多分入っていないくて、「日本語が

通じない外国人」という意味でおっしゃったというのは何となくわかりますが、それを「外国人」というふうにポンと言ってしまうと、生野区のようにこれだけたくさん外国人の方がいると、いろいろな方がいるので、「やさしい日本語」とかについても、やっぱり日々自分の言動の中で気にしていけないといけないと思いました。

○今井委員

ありがとうございました。井筒委員お願いします。

○井筒委員

いろいろな方の意見を「もっともだな」と思って聞かせていただいていたいました。子どもを巻き込んで何かをしたいと思って動き出すと、どこからお金を準備しようかって必ずなるんです。誰かを巻き込んで、どこかからお金を引っ張ってくるというような苦勞がすごく大きくて、予算をうまく取れる方法があれば教えていただきたいなと思っています。長期休みの期間中、子どもを集めて1日遊ぶとかも会館でやっています。今度の1月にも開催しますが、5、60人の子どもがやっぱり来るし、子どもが来たら親もついてくるんです。うちの地域では、子供会は全くありませんし、PTAも役員がちょっといてるだけで、もう本当に動いていないところなので、どうやって子どもを引っ張って、親を繋げていって、地域に広げていこうかというのを一生懸命やっているのですが、なかなかうまくいかないです。お金がどこかから湧いてくるわけでもないのに、どういう役員の方を巻き込んで、どのように動いていったらいいか模索中の状態です。

先ほどおっしゃったように、子どもは皆すごくいい子なんですが、いろいろな親がやっぱりいるのと、ゆとり世代以降の方がほとんどなので、私たち世代とは考え方が全く違って、どこからボールがくるかわからないみたいな状態になっているのですが、そういう親も含めて、一緒に話をして、一緒に育てていこうというか、一緒に楽しく過ごしていきませんかというような地域を作れたらと思っています。

○今井委員

ありがとうございます。上田会長の方からも、親も自己肯定感が低かったりするのではというお話もありましたし、あとひとり親世帯が多かったりするというお話もありました。でも、それと同時にラブコールがあるというのがとてもいいなと思って聞いております。

マヤ委員の方お願いいたします。

○マヤ委員

皆さんの意見などをいろいろと聞いて、私も話したいことがたくさんありますが、今日は少し短くしてお話ししようと思います。

まずは、教育委員会事務局の方もいらっしゃるので、私も大阪市教育委員会の

通訳・母語支援の活動を4年間やっていて、小学校から高校までいろいろなところを通訳の仕事でまわっています。でも通訳する人が足りてないのですごく大変です。今は学校で懇談が始まっているので、今日も朝8時に家を出て、ずっと通訳の仕事をして、そのままこの区政会議に来ています。

あと、私が今までの経験で思ったことは、生野区というのはすごく外国籍の方が多く住まれている地域なので、もう仲良くしていくしかないのかなと思っています。外国籍の方といろいろと違うなと思うことの中には、文化的なこともあるかもしれないし、その方はそのことをきちんとわかっていないかもしれない。そこまで私たちがいろいろと教えられてないかもしれないし。言葉が通じなかったり、コミュニケーションできなかつたらいろいろなことができなくなるので、そのために、私も医療通訳とか教育通訳とかいろいろとやっていますが、自分の地域に問題があるときは私も力も入れたいので、本当にこの区政会議は私にとってもすごい大事になるかなと思っています。これからも自分のパワーを入れて、みんなと一緒にやっていきたいし、すごく素晴らしいまちにしたいと思います。

今、入国して学校に新しく通う子どもたちには、学校に通う前にプレクラスというものがあります。これは大阪市教育委員会が行っているものです。プレクラスは10日間ありますが、通訳がついていない時間もありますし、多分10日間ではちょっと時間が足りてないのではないかなと思っています。違う世界から来た子どもたちは、まず文字・習字から始めて、その後学校生活のことや日本のいろいろなルール、地域のことなどを全部教わります。10日間の50時間ほどの中で何時間かだけ通訳の先生がついている授業を受けられるのですが、ちょっと足りていないので、生野区ではいろいろな学校で結構外国籍の子どもが多いので、母語支援として何かプログラムをした方がいいのではないかなと思います。今は中学3年生には、母語支援の授業サポートのプログラムはあるけど、入国したばかりの子どもたちにもそういった支援があれば、その子どもたちから地域や日本のいろいろなルールとか、これからの学校生活のルールとかの情報も親まで届いたりすると思います。学んだ文化的なこと、これから変わらないといけないこととかを親たちにも教えてくれるので、そこを何かしていけばいいんじゃないかなと私は思います。

あと保育園のことも少しだけ話します。この前、「日本語ができないと子どもを預かれない」と言われてすごく悲しんでいる保護者の方が私のところに来ました。大阪市教育委員会には通訳さんがいるので、何か問題あればすぐにリモート通訳とかで対応できるけれど、保育園ではそういった対応はできないのかなと思って。時々、私が電話や直接行ったりして通訳のサポートをしています。多分そこにも何かしてあげたらいいのではないかなと思っています。なぜなら、今

の子どもたちは生野区の未来なので、何かしていけたらいいなと思っています。

あと、保護者の方も、子どもは学校に行っているけど、自分たちも「日本語を学びたい。」「日本で働いてるので、みんなとコミュニケーション取りたい。」と思っている方もいます。私も日本語ができなかったときの日本やこのまちと、日本語がちょっとできるようになった後のこのまちは全然違ったので。親たちもちょっと勉強したいなら、今、巽小学校に週1回だけ夕方に教室はあるみたいですが、その時間に行けないとか、またはそこまで説明を受けてないとかの理由でみんなは参加できていないので、私も自分が飲食店をやっている桃谷商店街の中で個人的に教室・塾をしていて、ちょっと力を入れてボランティアで日本語を教えています。ひらがな・カタカナを教えたり、地域のルールとかを教えたり、子どもの学校の宿題や高校入試のサポート、また、保育園入園前の資料を書くのを手伝ったり、何でもできることをやっています。それで、自分の名前や住所、電話番号だけでも書けるようにしたら、このまちはもっと綺麗になるかな、もっと明るくなるかな、もっと仲良くなるかな、外国籍の方もこのまちをもっと好きになるかなと思っています。

○今井委員

ありがとうございます。直接聞くとこちらも世界が変わるなと思って聞いておりました。最後に部会長の方からも一言いただけたらと思いますがよろしいでしょうか。

○西村委員

もうマヤ委員のお話で締めくくりみたいな感じで、拍手喝采かなと思います。うちも定員12名の小さい保育園をやっていますが、そこにもいろいろな国籍の子どもたちが通っています。また一方で、介護の仕事の方では、デイサービスにベトナムの方が2人来てくれていて本当に助かっています。本当に今おっしゃっていたように、仲良くしていくしかないんだよね。本当に心がけていきたいなと思っています。

先月、ちょっと東京に行く用事があって、かねてから興味があった川崎と世田谷のプレーパークというところを見てきました。世田谷では1979年からやっているのですが、子どもたちが都会のまちの中でも自由に遊べる場所で、平日の昼間でしたが、バスケットボールをしている子どもたちがいたり、この一角にはフリースクールがあったりしました。今まで我々が過ごしてきた時代と違って本当に1人1人に即した対応、教育をしていかないといけない時代だなと最近つくづく感じてしまいます。どちらのプレーパークにも子どもの権利条約が掲げてありました。それに基づいて、川崎なんかは住民の反対を押し切って事業を始めたということで有名なところですが、プレーパークを実際に見せていただいて、子どもの目線から見たら、生野区では学校統廃合で、いろいろな場所が失

われてしまったかもしれないけど、その場所をまた子どもたちの居場所、また地域との関係作りのために生かしていかないといけないというのが我々大人の役目かなと思っています。どうもありがとうございました。

○今井委員

ありがとうございました。皆さまに活発な議論をしていただきありがとうございました。そうしましたら意見交換を終了させていただきます。進行を部長にお返しします。

○西村委員

今井委員、見事な進行ありがとうございました。

それでは議題3その他について事務局から報告事項等がありましたらお願いします。

○森区政推進担当課長

皆さまお疲れ様でした。事務局から2点事務連絡をさせていただきます。

一つ目は本日いただきましたご意見などにつきましては、令和8年1月27日に開催する全体会で部会報告をさせていただき、他の部会の皆さまとも共有させていただきます。部会報告の内容は事務局にてひとまず整理いたしまして、本日進行を務めていただいた今井委員と調整させていただきますのでよろしくお願い致します。

二つ目は、「令和8年度生野区の取組（案）について」という本日お使いいただきました資料は、全体会でもお持ちくださいますようお願い致します。

事務局からは以上になります。

○西村委員

ありがとうございました。それでは本日の会議を踏まえまして筋原区長から一言お願いします。

○筋原生野区長

皆さま長時間貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。本当に皆さまそれぞれの熱い思いで活動していただき、本当に心より感謝を申し上げます。

また予算の問題ですが、本当に皆さまのおっしゃっていただいている部分に予算をつけたいのですが、限られた予算の中で、助産師の取組につきましても毎年一步一步進んで、やっと常時雇用までできるようになってきましたので、一歩ずつではありますが、進めていきたいと思っております。そして何より、区役所の方も、いただいているご意見に100%お答えするのはなかなか難しいんですけど、せめて姿勢として、区役所が引いているように見えないようにというところはしっかりとやっていきたいと思っております。

引き続き皆さまと一緒に公民地域連携で頑張っていきたいと思っておりますので、

どうぞよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

○西村委員

筋原区長ありがとうございました。区政会議は生野区の将来について、区民同士が率直に情報交換をし、意見を語り合える場です。令和8年1月27日火曜日には、全体会の開催が予定されておりますので、可能な限り皆さまご出席よろしく願いいたします。それではこれにて、こどもの未来部会を終了します。皆さまお疲れ様でした。